

橋本教育長定例記者会見概要

日時：令和3年4月1日（木曜日）15：00～15：30

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

【教育長より】

教育長新任のあいさつ

本日付で教育長を拝命しました橋本です。よろしくお願い申し上げます。

教育長就任にあたり、今後の教育行政について、思いをお話しします。

まず私としては、大阪の全ての子どもたちが、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を自ら切り開いていけるよう、子どもたちの学びや成長をしっかり支えていきたいというふうに思っております。そのため、大阪の教育行政の一層の充実に全力を挙げて取り組んでまいります。

本年1月の中央教育審議会答申では、個別最適な学びと協働的な学びの実現というタイトルがつけられております。今後の教育行政の展開にあたりましては、この視点を持って充実に努めていきたいと思っております。

まず、一人ひとりの子どもたちの状況に応じた学びの一層の充実が求められているというふうに考えております。今年度から導入をいたします、すくすくウォッチは教科横断型の問題を含み、個々の子どもの経年変化データを個票で子どもに提供する、そういう仕組みを導入いたしますけれども、このすくすくウォッチを活用しまして、一人ひとりの学習状況をしっかり把握し、その状況に応じた学習を一層推進していけるよう、市町村教育委員会の取り組みをしっかり支援していきたいと思っております。テストをやることが目的でなく、テスト活用して、指導の充実に努めていきたいというふうに思っております。

次に、GIGAスクール構想についてでございます。小・中学校は1人1台の端末の導入が概ね完了をいたしております。今後、ICT機器の活用事例の共有や教員への研修など、市町村教育委員会の取り組みをしっかりと支援をしていきたいと思っております。それから府立高校の1人1台端末につきましては、今年の秋までの導入をめざしてまいります。同時に、学校に対するICTの活用手法の支援や、昨年度実施しましたモデル事業の展開など、配備される端末機器を有効に活用するための準備を並行して進めまして、ICTを活用した教育内容の一層の充実に取り組んでいきたいと思っております。

このICTにつきましては、昨年コロナ禍の中で一気に構想が進んだわけですが、ICTは災害や感染症の蔓延化など、緊急時にも教育活動の継続が可能となるというメリットに加えまして、子供たちの興味関心を引き出し、主体的な学びに繋げていける可能性のあること。それから一人ひとりの子どもたちの状況に応じた個別最適な学びの実現という面でもICTの活用が有効であること。さらに、先生たちの働き方改革にも活用できるのではないかとということで、ICTの活用は大変大きな可能性を秘めていると、私自身考えております。単に、端末を生徒・子どもたちに配るということではなく、このICT活

用のメリットを最大限引き出して、大阪の教育力の向上に繋げていきたいと思っております。

次に直面する課題ということで、府立高校のあり方についてでございます。ご承知の通り、令和3年度の入学者選抜におきましては、府立高校の定員割れが45校と、過去に例を見ない数字になっております。

現在、大阪府学校教育審議会におきまして、今後の府立高校のあり方について、ご議論をいただいているところでありますけれども、今年の冬予定の答申も踏まえ、人口減少化における府立高校の全体像を整理して、お示しをしていきたいと思っております。

次に、支援が必要な児童生徒への対応についてでございます。

知的障害のある児童生徒の増加と、支援教育へのニーズの高まりによりまして、既存の支援学校の狭隘化、これはもう一層深刻になっております。現在、新校整備を進めておりますけれども、さらに様々な手法を含めて、追加の対応も必要ではないかと考えておりますので、その手法について検討していきたいと思っております。また、日本語指導が必要な児童生徒数も増加をし続けており、学校現場における多言語化も進んでおります。今後、外部人材の増加も想定されておきまして、その対応の強化を図っていきたいと思っております。

次に大阪の教育の向上には、公立と私立の切磋琢磨と連携が不可欠というふうに考えております。私自身、大阪府教育委員会事務局から、大阪府教育庁となった際に初代の私学監というものを拝命しまして、実務面での責任者として、公私の切磋琢磨・連携について担当して参りました。この間、私立学校の授業料の無償化等が進みまして、公立私立学校の抱える課題というものは、かなり共通化してきていると思っております。そういう認識のもと、さらなる大阪の教育力の向上のために、総合教育会議の活用や、公立と私立の意見交換の場を設けるなど、情報共有や議論を積極的に行いまして、公私トータルでの大阪の教育の向上を図ってきたいと思っております。

最後に大阪の教育力を向上させるには、市町村教育委員会や学校現場、私学などの関係者と密接な連携がカギとなると考えております。大きな目標ではありますけれども、関係者にもご協力をいただいて、一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様方におかれましても、引き続きご協力をいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

【質疑応答】

(記者) 読売新聞です。よろしくお願いたします。

教育長に何点か伺いたいんですけども、冒頭の挨拶で言われたあの公私の切磋琢磨の部分で、今後は情報交換の場を増やしていきたいというところと、もう一点、大阪府立高校の定員割れは40校、これは例を見ない数字だということを言われたと思うんですけども、どうしても最近学校現場等で話を聞いていくと、私立学校の授業料無償化の影響で、公立学校にもやはり人気・不人気という形で差が出ていて、なかなか定員に満たない学校が増

えてるんじゃないかっていう声も、実際聞いたことあるんですけども、そう
いったところでこのバランスを取るってとても大変なことだと思うんで
すけども、現状、教育長として、今の私立高校の授業料の無償化っていうの
は、これまで通り続けていきたいとか、そこら辺のお考えはどうでしょうか。

< 教育長 > まず、私立高校についても後期中等教育ということで、教育として果たす役
割は、公立と基本的には変わらないというふうに思っています。

授業料に差があるということで、経済的な負担の関係もあって、どうしても
公立にしか希望できないという子供たちも多かったわけですけども、私立
高校の授業料の無償化といいますか、支援が充実されてきて、経済的な面で
私立高校の選択を断念するということが、なくなってきたということでご
ざいますので、まさに教育内容といいますか、その内容で公私で切磋琢磨す
る時代に入ってきてるというふうに思っております。40校の定員割れにつ
いてはですね、私が教育次長だったのが5年ぐらい前ですけども、その当時
でいうとちょっと考えられない数字でびっくりするんですけども、まずは
しっかりその要因分析をして、今後の公私の切磋琢磨のあり方、それから府
立高校の最適な配置のあり方、そういったものを専門家の先生方のご意見
もいただきながら、しっかり整理していきたい、そういうふうに考えていま
す。

(記者) 毎日新聞です。よろしくお願ひします。新型コロナウイルスの関係なんです
けれども、今、変異株が大阪含めて全国で広まっているということで、子ど
もへの感染力も強いというのも指摘されておりますけれども教育庁として
ですね、変異株の蔓延っていうのが、教育現場に与える影響をどのようにお
感じになられているのか、また今後感染が拡大したときに府教委としての
対応に何か影響を与えるものなのか、お考えをお聞かせください。

< 教育長 > 今日、実は朝から、その関係で報告を受けておったんですけども、まず春休
みに入って、学校の登校そのものが少なくなってますので、その学校の授業
活動で感染した事例っていうのは出てきてないんですけども、やはり春休
みに入ってクラブ活動が盛んになって、クラブ活動を契機にして感染する
事例が複数出てきてるというような報告を今朝受けております。ですから
今おっしゃったようにそれが変異株なのかどうかっていうのがまだ専門の
方もそこまで断定されてないですけども、1月の時以上にクラブ活動で感染
する事例が多くなってるんじゃないかというような担当者の感触を聞いて
おります。府教委の対応につきましては、1月の緊急事態宣言が発せられた
ときの本部会議です、一応、レッドステージになったらこうする、緊急
事態宣言になったらこうするという府教委の対応を整理いたしております。
ただそれはあくまでレッドステージそれから緊急事態宣言ということで整

理しておりまして、今回蔓延防止ってのはまだちょっと初めてのケースでございまして、これについて、どう対応していくのかということについてはですね、急いで検討しないといけないと思っております。

(記者) 担当者の感触ということで、クラブ活動での感染事例が多くなってるってことで、あの教育長としてはその辺り報告を受けて、この変異株への警戒心というか、どんなふうを受け止めてらっしゃいますか。

< 教育長 > 確かにクラブ活動では、感染事例が想像していたより多くなっていうふうにしたことが率直な感想です。ただそのクラブ活動そのもので感染が起こったのか、その後の、例えばロッカールームなんかで起こったのか、春休みなどでその後の食事会などの、いろいろなケースがあるようでして、一概にクラブ活動が全て原因ということはないと思うんですけども、それに関連して、感染してる事例っていうものを、報告を受けておりまして、やはり十分警戒しなければならない状況だというふうに思っております。

(記者) 共同通信です。よろしくお願ひします。先ほどの関連なんですけれども、蔓延防止措置が、5日から適用されることになった場合、例えばクラブ活動の実施の自粛とかそういった踏み込んだ対応も考えられるんでしょうか。

< 教育長 > 現時点でクラブ活動を全て禁止するというような、強い措置まで取る考えはありません。ただ、感染事例も踏まえて、どういう注意喚起なり、指導、あるいはどういう措置が必要なのか、急いで検討しているところですので、まとまりましたらご説明させていただきたいと思ひます。

(記者) 毎日放送です。先ほどの蔓延防止措置が適用された場合の措置について、検討されているとのことですが、今日の夜にも対策本部会議が開かれると思ひうんですけども、そちらで何か発言予定があったりするんでしょうか。

< 教育長 > そういうことも含めて、今検討し作業してるところです。

(記者) 大阪日日新聞です。よろしくお願ひします。2点お伺ひしたんですけども、公立高校の定員割れの要因なんですけども、教育内容もさることながら入試日程の早い遅いであるとか、情報発信力の話とかが出ているんですけども、今の時点で要因についてどういうふうに感じていらっしゃいますか。

< 教育長 > 先ほど申し上げましたように、5年前に教育次長をやりましたけども、その時の経験で言うと、どうもちょっと想定がつかない数字だなというふうに思ひてまして、私自身はこれからいろいろデータを集めてきちんと要因分析する必要があると思ひております。

(記者) 個別最適化の授業のICTの活用について、今、結構AIの活用をしたりとか、先端技術の活用というの、出てきてると思ひんですが、そのあたりでこういう手段があればと、注目されている点、具体的なものがあれば、教えてください。

< 教育長 >まさにそういうリーディングケースをこれから作って行って、それを広げていくという形で、このICTの活用を根づかしていきたいと思います。一斉によーいどんでやっても、みんななかなかやり方をわからないと思います。いくつかリーディングケースを作って、それを参考にしてもらって、広げていくという方法が一番現実的じゃないんじゃないかなと思ってます。